

# 東部地区地域生活百景活用方法書

## <はじめに>

平成20から21年度において選定した「とっとり地域生活百景」のような地域の遺伝子ともいえる貴重な風俗・景観は、身近で日常的あるだけにかえってその価値が見過ごされがちであり、地域資源として意識的に保存・活用されなければ早晩失われてしまうものと懸念されています。このため、今に残る百景の価値を多くの県民に再認識していただき、活動団体、事業者及び行政等が連携しながら保存・活用の取組につなげていく必要があります。

そこで、平成22年度において、まちづくり分野、歴史・自然分野の有識者の皆様に東部・中部・西部地区ごとに地域生活百景モデル地区を選定いただいた後、地区ごとに地元代表等の皆様を加えて「地域生活百景活用方策検討会議」を2回開催し、地域生活百景の保存・活用による郷土への誇りを育む方策や地域活性化につなげる方策、取組計画及び実施体制等を御検討いただきました。

本方法書は、その検討結果として、地域生活百景等地域資源の保全・活用によるまちづくりの活動を促進し、地域の活性化につなげていく上で、有効と考えられる事業展開方策等を「アイデア・ヒント集」としてとりまとめたもので、今後、各地域において景観まちづくり活動のあり方を検討する際に活かしていただくとするものです。

## 1 地域(百景)名

石がま漁ほか湖山池周辺地域

## 2 目標(現状・課題)

### (1) 目標

地域の人が湖山池に誇りを持ち、内外にアピールする環境・景観づくり(仮称)

### (2) 現状・課題

湖山池やその周辺で住民の活動が活発であるが、漁業者や各活動団体との連携ができていない。 3(1)

漁業者が減少し、石がま漁など漁法を守っていくことが難しい。また、石がまの構造が解明されていない。 3(2)

公民館活動の一環として一斉清掃を10年くらい続けているが、更に住民への意識啓発が必要である。また、舟から見る湖山池の景観はきれいであるが、ヒシの繁茂や悪臭といった環境悪化の問題がある。 3(3)

様々な方向から多彩な景観ビューポイントがあるが、木が大きくなるなどにより湖山池が見えなくなっている所もある。 3(4)

景観がきれいなビューポイントを結ぶ道路はあるが、歩道がなく危険である。また、各ビューポイントが点にとどまり、線としてつながっていない。 3(4)

湖山池の水面を一般の人が利用できていない。 3(5)

湖山池の知名度が低い。 3(6)

なお、湖山池において水質汚濁の問題があるが、湖山池水質管理計画に基づき鳥取県及び鳥取市で別途取組が行われるという視点に立って、本方法書では景観資源(地域生活百景)活用方策を取りまとめる。

## 3 事業展開の方向性(キーワード)

### (1) 活動団体等の連携強化の仕組みづくり

### (2) 伝統漁法の保存

### (3) 湖山池景観の向上・環境保全

### (4) ビューポイントの再発見・整備、ビューポイントを結ぶルートづくり

### (5) 湖山池の利活用推進

### (6) 地域内外への情報発信

#### 4 事業例（百景活用方策）の概要

##### （１）活動団体等の連携強化の仕組みづくり

事業例：共通認識をつくる場づくり

- 内容：・各種団体の活動状況の情報共有と活性化に取り組む思いを一つにまとめる場を設定する  
・漁業者と住民、活動団体との景観の共通理解、共通認識を図る場を設定する

##### （２）伝統漁法の保存

事業例：石がま祭り

- 内容：獲れた魚の甘露煮や味噌汁を試食・販売し、湖山池の魚の良さを知ってもらう

事業例：漁業者との連携活動

- 内容：石がま漁で獲れた魚の甘露煮などの加工食品を開発・販売することで、販路拡大、漁の存続を図る

事業例：漁業体験

- 内容：石がま漁体験イベントを行う。また、子どもたちを対象として、石がまの構造を考え、実際に作ってみるといった体験型学習を行う。

##### （３）湖山池景観の向上・環境保全

事業例：湖山池の美化活動

- 内容：・年１回の一斉清掃を行う  
・アダプトプログラム事業を取り入れ、利用者や企業を巻き込んだ活動を行う  
・小さな単位でボランティア活動を年２回程度行ってもらう  
・犬の散歩のときにゴミを取ってもらう  
・ゴミの集積場所を設置する

##### （４）ビューポイントの再発見・整備、ビューポイントを結ぶルートづくり

事業例：湖山池写真コンテスト

- 内容：湖山池を撮影した写真を一般公募し、写真コンテストを実施する。また、併せて写真教室も実施する。

事業例：湖山池俳句コンテスト

- 内容：湖山池テーマとした俳句を一般公募し、俳句コンテストを実施する

事業例：湖山池ビュースポット整備、アクセス整備

- 内容：・湖山池ビュースポットの眺望を阻害する木の枝打ちを行う  
・湖山池ビューポイントへ上がる道を整備する

事業例：湖山池散策モデルルートづくりとマップづくり

- 内容：・ハスの花や湖山池八景などを徒歩やレンタサイクルで巡る湖山池散策モデルコースをつくる  
・湖山池を散策するルートなどの紹介マップを作成する

事業例：湖山池一周ウォークラリー大会

- 内容：湖山池全周 18 km を巡るウォークラリー大会を行う

##### （５）湖山池の利活用推進

事業例：湖山池遊覧

- 内容：・現在の船を活用した子ども対象のイベントを継続して行う  
・湖山池遊覧の企画を開発し、実施する

事業例：湖山池の多様な利活用

- 内容：湖山池の利活用方策や条件について整理検討を行う

(6) 地域内外への情報発信

事業例：回覧板・広報誌等による地域内外への広報

内容：湖山池を巡る活動を回覧板、広報誌や情報誌により地域へ広報する

事業例：湖山池の地域資源活用による学校教育

内容：・地域の子どもたちに対して、学校教育の中で地域の歴史教育・環境教育の場で広報を行う

・子ども会で青島の木竹を活用した体験を行うなどのイベントを行う

事業例：青島B-1グルメ大会

内容：・湖山池を広く知ってもらうため、B-1グランプリを誘致する（湖山池の特産コーナー設置）

・湖山池で採れるレンコンやヒシの実を活用した料理を販売する

事業例：山陰海岸ジオパークに関連した広報

内容：山陰海岸ジオパークの鳥取砂丘ジオエリアに入っており、これをアピールした広報を検討する

事業例：湖山池の写真を活用した展示会実施、グッズ販売

内容：湖山池写真コンテストの写真を活用した写真展を開催し、絵葉書やカレンダーを作成・販売して、写真や絵画など芸術関係者に湖山池を知ってもらう

5 取組計画想定案

方向性	事業名	期待する実施時期		現在取り 組み可能 な団体
		短期的(H23～25年 度)	長期的(H26年度以 降)	
(1) 活動団体等の 連携強化の仕 組みづくり	共通認識をつ くる場づくり	・活動団体等の情報 収集 ・情報共有する場の 設定	連携した事業実施	湖山池情報 プラザ
(2) 伝統漁法の保 存	石がま祭り	祭りの継続	石がま漁の継続	
	漁業者との連 携活動	生産者の確保 できたものから 実施	販売の体制づくり	
	漁業体験	体験メニューなど の仕組みづくり	体験イベントの実 施	
(3) 湖山池景観の 向上・環境保全	湖山池の美化 活動	・湖山池一斉清掃の 継続 ・啓発活動	市域全体への取組 へ広げる仕組みづ くり	
(4) ビューポイント の再発見・整備、 ビューポイントを 結ぶルートづくり	湖山池写真コ ンテスト	写真コンテスト実 施	継続	湖山池情報 プラザ
	湖山池俳句コ ンテスト	俳句コンテスト実 施	継続	湖山池情報 プラザ
	湖山池ビュー スポット整備、ア クセス整備	・整備可能な場所の 選定 ・木の伐採、遊歩道 の整備などでき るところから実施	場所ごとに整備方 法を検討	

方向性	事業名	期待する実施時期		現在取り 組み可能 な団体
		短期的(H23～25年 度)	長期的(H26年度以 降)	
(4) ビューポイントの再発見・整備、ビューポイントを結ぶルートづくり	湖山池散策モデルルートづくりとマップづくり	・サンプルルートの選定 ・マップづくり	・ルート整備 ・適宜マップの改訂	湖山池情報プラザ (サンプルルート、マップづくり)
	湖山池一周ウォークラリー大会	・許可申請 ・実施	継続	湖山池情報プラザ
(5) 湖山池の利活用推進	湖山池遊覧	・現在進行中のイベント継続 ・水面の利用権の整理	大きい船を活用したイベントへと拡大	湖山池情報プラザ
	湖山池の多様な利活用	条件整理検討	同意を得て、告知をしながら利活用促進	
(6) 地域内外への情報発信	回覧板・広報誌等による地域内外への広報	・回覧板、広報誌や情報誌による地域への広報 ・ブログを活用した広域的な広報を継続 ・湖山池の情報が集まる仕組みづくり	・広報誌や情報誌による広域的な広報 ・ブログを活用した広域的な広報を継続	湖山池情報プラザ
	湖山池の地域資源活用による学校教育	湖山池周辺の小学校を対象として継続	対象を市内全域の小中学校として拡大実施	湖山池情報プラザ
	青島B-1グルメ大会	実施のための情報収集	大会実施	湖山池情報プラザ
	山陰海岸ジオパークに関連した広報	広報の参加団体を拡大	継続	湖山池情報プラザ
	湖山池の写真を活用した展示会実施、グッズ販売	展示会実施、グッズ作成・販売	継続	湖山池情報プラザ

## 6 推進体制及び連携組織（想定されるもの）

### < 景観まちづくりや本方法書等の説明 >

「とっとり地域生活百景説明会」を県・該当市町が連携して開催し、広く地域住民や活動団体が会し、景観まちづくりとは何かを共に考え、地域生活百景活用方法書の内容の共通理解を図り、意見交換を行い、今後の取組についてのきっかけづくりの場とする。

### < その後 >

湖山池周辺での活動団体、漁業団体及び地域住民等が会する場において、各団体等の活動状況の情報共有、景観資源の現状・課題や目標像の共通認識を図った上で、取組主体を組織的化しながら推進していく必要がある。